

経歴	
平成9年 4月 自治省採用 同 財政局調整室	平成15年 4月 山梨県企画部総合政策室政策主幹
平成9年 8月 高知県総務部財政課	平成16年 4月 同 森林環境部循環型社会推進課長
平成10年 4月 同 企画振興部市町村振興課	平成18年 4月 同 総務部財政課長
平成11年 4月 自治省大臣官房総務課	平成20年 4月 総務省自治行政局市町村課外国人台帳制度企画室課長補佐
平成11年 7月 フランス留学(パリ政治学院)	平成21年 6月 同 自治行政局選挙部選挙課課長補佐
平成13年 7月 総務省自治行政局選挙部選挙課	平成23年 4月 現職

惻隱の情

PROFILE
11

総務省自治財政局交付税課課長補佐 原 昌史

Hara Masanobu

総務省は、机上論だけでなく地方という現場を経験する地に足のついた議論を行い、理屈だけでなく、様々な人の立場や気持ちも考えながら、実際の社会を動かしていくダイナミズムを感じることでできる職場だと思います。この際、古き良き「惻隱の情」の哲学が息づく人間味あふれる組織文化を感じることが多く、総務省の仕事とその文化の一端をご紹介しますと思います。

具体と抽象を行き来する

皆さんも教育、社会福祉、警察など生まれてから現在に至るまで、様々な行政サービスを受けてきたと思います。この際、行政サービスに対する評価は一人一人の実際の体感で決まる一方で、国における究極の制度設計は、一見、無味乾燥に見える法律の条文を作成することを通じて行われます。このため、東京・霞ヶ関という窓から見た教科書的な抽象論を議論するだけでなく、国民満足度という視点から、全国津々浦々においてどのようにサービスが提供されているかという具体の理解が求められます。こうした具体と抽象を行き来し、「理」と「情」のバランスある人達が集まった職場が総務省の特徴だと思います。

地方交付税17兆円の意義

皆さんは、日本全国どこにいても一定水準の行政サービスを受けられるのは平等で当たり前と、何の疑問も持たないと思います。しかし、歴史的に見れば戦前の日本にあっては住む地域によって財政状況が異なりすぎて、日本全体としての新たな政策推進を図ろうとしてもスムーズに実施できないような状況が発生していました。また、海外に目を向ければ、統一を図ろうとするEUにおいても、地域間格差の問題のため、EUから離脱しようとする国があるなどの動きもあります。こうし

た問題が、日本において顕在化しないで済むのは、地方交付税制度を通じた財源保障と財源調整機能を通じて、各省庁の縦割りを超え、国が実施する施策をすべての地方団体に実施できるよう財源を確保しているからです。また、究極的には、日本全国が一体でいられる統治機能といっても過言ではないでしょう。北海道から沖縄県まで、人口数百人の村から人口数百万人の大都市まで、日本のどこに住んでいる人であっても、一定の水準の行政サービスが受けられるようにすることを担保する仕組みが地方交付税制度であるとともに、それぞれの地域の実情を反映した様々な行政サービスに具体化されるための活きたお金が地方交付税17兆円の意義です。

複眼的思考

実社会においては、多様な価値観、様々なものの見方があり、理想の答えは1つとは限りませんし、場合によっては答えがない問題すら多く存在します。この時に、より多くの人々の満足度が高い社会を構築していくためには、自分の経験に固執して視野狭窄に陥ることのないよう様々な環境を経験して、様々な人の立場を慮って思考する訓練が重要です。



毎年恒例、交付税課の富士登山！（筆者下段中央）

東京生まれ東京育ちの私は、自治省の官庁訪問を通じて、様々な地方勤務を経て、自らの考えや哲学を持った諸先輩方に圧倒されました。このことは、霞ヶ関、地方団体(都市と田舎、暑い地方と寒い地方、海のある地方とない地方など)、そして海外留学・勤務と日本を様々な視点から見る経験を通じて、多角的な視点で思考し、感じることでできる人を育てる組織であることに起因しているように思います。

時代のフロンティアへ

少子高齢化、人口減少、産業空洞化などの新たな課題がいち早く、かつ、如実に現れるのはまさに地方団体においてです。総務省職員は、各省の施策が集約される地方団体において、政策分野の垣根なく、政策の組み合わせを行いながら、処方箋を書くことに取り組んでいます。こうした新たなフロンティアへの挑戦が、日本全体の活力を引き出す取組とも言えます。困難な時代だからこそ、皆さんの知性・教養と世のため人のためという情熱を以て、清く明るく、そして楽しく一緒に仕事をしませんか。

経歴	
平成10年 4月 自治省採用 同 財政局財政課	
平成10年 8月 大分県総務部地方課	
平成11年 7月 自治省消防庁救急救助課	
平成13年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課	
平成14年 4月 同 自治財政局財政課	
平成16年 4月 島根県地域振興部地域政策課主査	
平成17年 4月 同 健康福祉部青少年家庭課長	
平成19年 4月 同 政策企画局政策企画監室政策企画監	
平成20年 4月 同 総務部財政課長	
平成22年 4月 総務省自治行政局住民制度課課長補佐	
平成23年 4月 同 自治行政局選挙部政治資金課課長補佐	
平成24年 4月 現職	

PROFILE
12

総務省自治行政局選挙部選挙課課長補佐 鈴木 康之

Suzuki Yasuyuki

幸せを届ける仕事

現在の業務は？

私は、選挙制度を担当しています。坂本龍馬の「船中八策」に「上下議政局ヲ設ケ、議員ヲ置キテ万機ヲ参贊セシメ、万機宜シク公議ニ決スベキ事」という項目があります。「上下議政局」というあたりはアメリカを意識したものかもしれませんが、「御殿様中心社会」の江戸時代の末期。龍馬は、万民が政治に参加し、その政治によって国家の方向性を決めていくアメリカの仕組みを聞き、さぞかし驚いたことでしょう。龍馬の死後、明治の時代にその仕組みは日本でも実現しました。日本において、今でこそ当たり前となっている民主主義。その国家としての体制を制度面から支えているのが、選挙制度です。

一昨年から衆議院・参議院の選挙制度改革論議への対応。昨年末には衆議院が解散され総選挙がありました。今年に入ってからは一票の較差は正の作業やインターネット選挙運動解禁の動きへの対応があり、そして夏には参議院通常選挙が控えています。課題の方から次々にやってきてくれるおかげで(?)息をつく間もありません。

しかし、日本という国家にとっての選挙制度の重要性を思うと、この制度の運用に関わらせて頂き毎日が充実していることは、大変有難いことだと感謝しています。

公務員を目指したきっかけは？

私は、自分の生まれ育った所が好きでした。各地域・学校でスポーツや音楽活動が盛んに行われ、人口増加に対応した再開発により街が整備され、救急救命医療も充実しています。「住んで魅力のある街・安心して住める街」と思いながら成人するまで何気なく過ごしていましたが、就職活動を機に、この環境は実は市役所の取り組みによるところが大きいのではないか、と考えるようになり、職業選択にあたり、行政からのサービス提供に関心を持つようになりました。

一方で、就職活動をしていた16年前は、バブル景気の終焉から5・6年経過し財政赤字

も急速に拡大。右肩上がりだった日本の先行きが不透明になり始め、国家的に解決すべき社会の課題も益々増えていくが見込まれた時期でした。それらの大きな課題に対応する事に携わりたいと思い、国家公務員を目指したことを覚えています。

特に印象的だった仕事は？

6年間勤務した島根県で、子どもと女性の福祉を担当させて頂いたことです。私はこの分野の専門家ではありませんが、「住民の方へ提供するサービスの向上」という観点から自分なりに考えて取り組もうと思い、当時社会問題化してきた児童虐待とDVの被害者のケアとサポートに特に力を入れました。

「虐待を行う親は自分も過去に虐待を受けていたことが多い。被虐待児に「健全な家庭」を経験させることが将来的に虐待を連鎖させない点では大事」という意見を聞き、また、アメリカにおける被虐待児のケアの状況を勉強し、自分なりに「里親家庭でのケア」にももっとつなげることが必要と考え、児童相談所と協力して取り組みました。担当課を離れて何年か後に、里親の方々から「あのときはありがと。里親のみんなも子どもたちのために頑張っています」と言われた経験は、仕事のモチベーションを保つ上で今でも大切にしているものです。

また、DV対策としては、東西に250kmという地理的条件の島根県において、比較的人口が集中している東部の出雲地域に女性相談センターがないことが、相談者・行政いずれにとってもネックになっていました。県庁所在地の松江にも相談センターができないか。県が交付税の急激な減少による大変な財政難の中、人事課・財政課との数度にわたる協議の末、相談センターの開設が決まったとき、公務員としての自分の中に何かを一つ積み上げることができたかな、と思いました。

心がけていることは？

感動することです。

我々の仕事は、国民の生活をイメージしながら、物事を企画し、人と人との間で協議を重ねていくものです。仕事をやる上で頭脳明晰であることに越したことはありませんが、理屈だけでは世の中は動きません。「人を思う心」も同じく大切なものです。仕事に追われて心が貧しくならないように、忙しい中ではありますが、本を読み、映画を観て、スポーツを観て、音楽を聴き(時々演奏もします)、心が動かされ涙が出るような機会に出会いに行くことを意識しています。

私自身はそのような感動を提供することはできないかもしれませんが、総務省職員として、どの職場にいてもこの国に住んでいる方々に幸せをお届けする仕事はできると信じています。私を支えて頂いているすべての方に感謝しながら、日々取り組んでいきます。

まだまだお伝えしたいことはありますが、紙面が尽きました。皆様とお会いしてお話しできる機会を楽しみにしています！



選挙制度について議論する筆者



北九州市での選挙事務研修会で講演する筆者